

研究課題名：肺癌検診喀痰細胞診が契機で発見された肺腺癌と肺扁平上皮癌の比較

本研究は、ちば県民保健予防財団 人を対象とする医学系研究に関する倫理審査委員会の審査結果（承認）を踏まえて理事長が許可した研究であり、1995～2008年における肺癌検診喀痰細胞診受診者のうち、喀痰細胞診のC・D・E（中等度異型・高度異型/癌を疑う・癌）判定から肺癌が確定した腺癌40例と扁平上皮癌102例を臨床的に比較しました。細胞像ではD・E判定細胞が出現し検鏡が可能であった肺癌症例のうち、腺癌23例と低分化扁平上皮癌10例を対象に、判定に使用した喀痰標本に出現する異型細胞および癌細胞を詳細に観察し、細胞学的な解析を行いました。

肺癌検診喀痰細胞診は肺門部早期扁平上皮癌の発見を目的に実施されておりますが、当施設における喀痰検診で発見された肺扁平上皮癌と肺腺癌の比率は約2：1であり、末梢に発生する腺癌も多数発見され、2cm以下の小型腫瘍の診断の契機にもなっております。また以前の肺癌の診断では小細胞癌と非小細胞癌の鑑別が重要でしたが、近年では非小細胞癌を腺癌と扁平上皮癌に鑑別することが治療を決定するうえで必要になっております。各組織型の細胞像を解析し比較検討して得られたデータは、肺癌の発見率向上のみならず、組織型推定の一助となり肺癌の治療にも大きく貢献できる可能性が考えられます。

本研究における個人情報等の扱いは以下の通りです。

1. 本研究はデータのみを収集する疫学研究であり、本研究のために新たに人体資料の採取は行いません。
2. 受診者の皆様の個人情報を削除した上でデータを分析を行います。
3. 研究の成果は学会や学術雑誌等で公表する予定ですが、個人が特定できる情報を公表することはありません。
4. 本研究の主任研究者および分担研究者は、本研究に関して利益相反はありません。

本研究にご自身のデータが利用されることについて、ご同意いただけない場合、またお問い合わせ等につきましては、下記までご連絡ください。

検査部 病理・細胞診断科 科長代理 田口明美